

平成28年度地域づくり表彰事例の概要

表彰内容 団体名 (都道府県名・市町村名)	活動の概要	問い合わせ先
<p>国土交通大臣賞 プロジェクトおおわに事業協同組合 (青森県大鰐町)</p>	<p>人口減少や少子高齢化が進み、基幹産業の観光や農業も停滞していた状況に危機感を持ち、町を立ち直らせようと、平成19年に「OH!!鰐元気隊」を立ち上げ、平成21年に「OH!!鰐元気隊」から9名が出資して「プロジェクトおおわに事業協同組合」を設立。 赤字続きであった「鰐come」(公共浴場、物産直売所、食堂等を備えた施設)を指定管理料0円で受託し、初年度より黒字化を達成しており、立ち上げた「産直の会」でも年間売上げが3,000万円となるなどの成果を上げている。 子どもたちのまちづくり参加を目的とした「OH!!鰐元気隊キッズ」の活動を開始し、清掃活動、特産品PR活動等とおして町の魅力に気づく活動も行っている。 町の伝統野菜である「大鰐温泉もやし」のブランド化に取り組んでおり、メディアにも取り上げられるようになり、成果を上げつつある。</p>	 <p>「OH!!鰐元気隊キッズ」の活動の様子</p> <p>大鰐町 企画観光課 0172-48-2111</p>
<p>全国地域づくり協議会 会長賞 富良野オムカレー推進協議会 (北海道富良野市)</p>	<p>食材が豊かでありながら、観光客は「景観」や「ドラマロケ地」を求め訪れる方が多く、富良野市の基幹産業である農業と観光の共生・相乗効果を図ることを目的に、富良野産の多種多様な農畜産物を利用でき、産地消費や食育にも取り組みやすい「カレー」に着目し活動を開始。 道内外の食イベント等へ参加し、富良野オムカレーのブランド化につながる活動を展開するとともに、食品メーカー、地元高校等と連携し、家庭の食卓でオムカレーを作る・食べる食文化を醸成するプロジェクト活動なども展開している。 カレーの町「ふらの」が道内外に浸透し始め、旅行情報誌に特集記事が組まれるなど、「景観」や「ドラマロケ地」に加え「食」による観光も、富良野市を訪れる観光客の目的の一つになりつつあり、経済面、地域・団体との連携・交流等に成果を上げている。</p>	 <p>富良野オムカレーとオリジナルランチ旗</p> <p>富良野市 商工観光課 0167-39-2312</p>
<p>全国地域づくり協議会 会長賞 江差町歴まち商店街協同組合 (北海道江差町)</p>	<p>江差町は歴史的建造物や史跡、旧跡が多く残されており、「中歌町、姥神町」の旧国道沿い地区(通称いこしえ街道)は、平成元年に北海道より歴史を生かすまちづくり事業のモデル地区に選定され、歴史的建造物の保全・整備のみならず、町民の生活環境の質的・精神的・経済的向上に寄与している。これらの地域資源を活用したまちづくりと商店街活動を行うことを目的に取組を開始。 毎年、2月・3月に「ひな祭り」、5月に「春のいこしえ夢開道」等、季節に応じたイベントを開催し、観光客誘致に成果を上げており、いこしえ街道沿いの住民が語り部となり、先祖から伝わる話を語り継ぐ「百人の語り部」を実施し、まちの魅力を観光客、修学旅行や自主研修で訪れる子どもたちに伝える活動も行っている。 平成28年3月の北海道新幹線開業を契機に、今後更なる交流人口拡大に向けた取組も検討している。</p>	 <p>江差の原風景を再現「花嫁行列」の様子</p> <p>江差町 まちづくり推進課 0139-52-6712</p>
<p>全国地域づくり協議会 会長賞 NPO法人 俳句甲子園実行委員会 (愛媛県松山市)</p>	<p>多くの俳人を輩出した松山市で、若い世代が俳句に慣れ親しむ環境の創出、難しいといったイメージの払拭、全国に発信できる文化事業としたいとの想いから俳句甲子園は生まれ、平成10年に第1回大会が開催された。第1回大会ではエントリー数は愛媛県の9チームであったが、平成27年の第18回大会では32都道府県の127チームにまで広がりをみせており、全国規模の文化事業となっている。 地元商店街を会場に活用することで、にぎわいの創出、商店街の活性化を図るとともに、市民や観光客が観戦することもでき、俳句に慣れ親しむ環境の創出にもつながっており、企業の協賛による俳句甲子園をモチーフにした路面電車が走るなど、俳句甲子園を通じた地域の連携が図られている。 俳句甲子園が俳句の音数と同じ第17回を迎えた平成26年に、松山市が「俳都松山宣言」し、俳句を活かした新たな松山市の魅力創出に成果を上げている。</p>	 <p>会場の大街道商店街の様子</p> <p>松山市 文化・こぼ課 089-948-6952</p>
<p>日本政策投資銀行賞 あわら湯けむり創生塾 (福井県あわら市)</p>	<p>平成16年にあわら市が誕生したのを機に「10年後のあわら」を見据えたまちづくり組織「RATY」が立ち上がり、平成18年に「あわら湯けむり創生プロジェクト」が県の「福井県地域ブランド創造活動推進事業」に採択され、その実践団体としてRATYを中心に平成18年に団体を設立。あわら温泉とあわら市のにぎわい創出を目的に活動している。 湯めぐり手形事業は、温泉旅館のネットワーク化に成功し、湯めぐりすることで温泉街の活性化が図られており、屋台村「湯けむり横丁」についても、にぎわいの創出、飲食店経営者育成にも寄与しており、地域経済の活性化も図られている。 あわら温泉のオリジナル商品の企画、販売や観光案内所「おしえる座あ」の開業も、あわら温泉やあわら市の魅力の情報発信に貢献しており、「るるぶ.com」で福井県人気観光スポットにランキングされるなど客観的にも評価を受けている。</p>	 <p>湯めぐり手形</p> <p>あわら市 政策課 0776-73-8005</p>
<p>審査会特別賞 近松の里づくり事業推進会議 (福井県鯖江市)</p>	<p>近松は幼少期を鯖江市で過ごし、近松文学の土壌が鯖江市の豊かな自然と人情、風情によって育まれたと言われていることから、近松作品の原点となったまちとして「近松のまちさばえ」を全国に発信するために、地域住民が一体となって近松に特化したソフト事業を展開。 平成9年より「たちまち近松まつり」を、平成14年より「立待月親月の夕べ」を毎年開催しており、近松に関するイベントを継続的に開催することで「近松のまちさばえ」の情報を発信し続けている。平成25年には近松生誕360年記念事業として「さばえ近松文学賞～恋話(KOIBANA)～」を創設し、恋愛短編小説を募集しており、これまで3回開催し、毎回500件にのぼる応募がある。 近松関連イベントをとおして、近松門左衛門に対する知識、関心等が高まり「近松のまちさばえ」の知名度も向上しつつある。</p>	 <p>さばえ近松文学賞結果発表の様子</p> <p>鯖江市 地方創生戦略室 0778-53-2263</p>